

令和5年度 第1回 四街道市立図書館協議会会議録

日 時	令和6年2月22日（木）午前10時～12時
場 所	四街道市立図書館3階 会議室
出席委員	土屋委員、村井委員、浅沼委員、川又委員、大和久委員、大塚委員 重田委員、日野委員、森田委員
欠席委員	山口委員
事務局	府川教育長、荒木課長、齋藤館長、月田係長 成瀬主査補、小野主任司書
傍聴人	1名

【会議次第】

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 教育長あいさつ
4. 委員紹介
5. 会長および副会長の選出について
6. 議事録署名人の指名について
7. 会議の公開等について
 - 1) 会議の公開
 - 2) 議事録の作成
 - 3) 名簿の公表
8. 報告事項等
 - 1) 図書館協議会委員及び図書館職員体制
 - 2) 令和5年度図書館利用者アンケート結果
 - 3) 令和5年度図書館サービスの進捗状況
 - 4) 令和6年度図書館サービス計画（案）
9. 閉 会

【会議経過】

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 教育長あいさつ
4. 委員ならびに職員紹介
5. 会長および副会長の選出について
 - ・会長に日野委員、副会長に村井委員を選出
6. 議事録署名人の指名について
 - ・議事録署名人は、重田委員を会長より指名

7. 会議の公開・議事録の作成・名簿の公表について

- ・会議は公開とし、議事録の作成のため会議の録音、発信は要点筆記とする。

8. 報告事項等

- (日野会長) 1) 図書館協議会委員及び図書館職員体制について、事務局から説明をお願いします。
- (事務局) ～図書館協議会委員及び図書館職員体制について説明～
- (重田委員) 図書館の方でスペシャリストを鍛え上げて、本の選定から始まり、人を育てるのがベストだと思います。委託の場合、数年ごとにスペシャリストが代わりますが、代わることによる不具合やマイナス面について聞かせてもらえればと思います。
- (日野会長) 重田委員の質問に対して、事務局からの回答をお願いします。まず、図書に関わる専門職の養成の点からお願いします。
- (事務局) まず、図書館司書については、市の職員は現在2名です。ホームックス株式会社は現在、10名程度います。
- (日野会長) 司書の図書館業務に関するスキルアップの研修など企画はしていますか。
- (事務局) 図書館主催のホームックス株式会社の司書を対象とする研修は行っていませんが、市の職員については、県立図書館が研修を行っていますので、その研修に参加することがあります。
- (日野会長) 重田委員いかがですか。
- (重田委員) 今まで何回か委託業者が変わり、不具合みたいな点は散見されましたか。
- (事務局) 今のところ、不具合は特にありません。
- (日野会長) 委託事業者が変更になると、現状と課題を次の事業者に伝え、引き継ぐこと、あと、司書がこれまで抱えていた課題をしっかりと協議会等をとおして、発言いただくなど、現場の声をより良い図書館運営に繋げたいと思います。
- (村井委員) 司書の1日の平均的な人数について、わかれば教えてください。
- (日野会長) まず、職員のシフトの状況を教えてください。
- (事務局) ホームックス株式会社については、早番は8時半から17時までの勤務で、遅番は10時半から19時までの勤務です。
- (日野会長) 結構、少人数なので、ホームックス株式会社の力を借りざるを得ないところがありますから、1日あたり司書は何名体制で回しているかが大事なポイントだと思います。
- (事務局) 本日で申し上げますと、早番については、司書は2名で、遅番については、司書は3名です。あと、移動図書館担当の方が1名です。
- (日野会長) 1日あたり6名ないし、5名程度の運用の仕方ですね。来館者数からすると、少ないのかもしれませんが、実際のところ、業務過多になっている方とか、あとは利用者の対応のところで忙しさが増しているとかそのような声はありますか。

- (事務局) そういった声は今のところはありません。
- (日野会長) 資料1について、その他ございますか。
- (森田委員) この業者を選定した背景について、1点目、競争性がどの程度あったのか、他にも応募されたところがあったのかという点と、もう1つは、おそらくプロポーザル方式だったのかと思われませんが、こういったところに選定の基準を設けて、受託者を選定されたのですか。
- (日野会長) 1点目、入札方法のところと、あともう1つ入札の審査基準ですね。この2つですが、事務局わかりますか。
- (事務局) 一般競争入札で、4社が手を挙げまして、1社が辞退しました。
- (日野会長) 実質3社ですね。あと、入札の基準ですね。
- (事務局) 入札の参加資格がある業者が手を挙げています。
- (森田委員) 一般競争入札ですと、参加基準のところ、スペックに合っていれば、後の判定は、金額で1番安い札を入れたところですね。
- (日野会長) 本当はプロポーザル方式で公募できると、図書館業務の質の確認ができると思います。
- (森田委員) 今の選択方式だと、おそらく参加基準のところ、どれだけの基準を設けたかというところが技術的な観点で見るポイントだと思います。
- (日野会長) 今後の課題の中に入れておくところですね。その他、いかがですか。その辺りまた委員の皆様からご意見ください。続いて、報告事項2) 令和5年度図書館利用者アンケート結果について、事務局から説明をお願いします。
- (事務局) ～令和5年度図書館利用者アンケート結果について説明～
- (日野会長) ありがとうございます。全体をとおして、委員の皆様から意見、また、感想も含めて、お寄せいただければと思います。
- (事務局) 私からいいですか。電子図書館は、どれぐらい周知されていますか。
- (事務局) 電子図書館は、使いやすくするために、利用カードを持っていれば、申し込みなしですぐに使えるという観点で構築しました。小学校に移動図書館車が巡回していきまして、学校の初めに、全ての小学校1年生に利用カードの登録を呼び掛けて、そのカードを作っていただいて、利用できるという広報をしています。あと、図書館のホームページに、目立つようなバナーを増やしています。
- (日野会長) アンケート結果からすると、わからないという回答が51.5%なので、まだまだ周知のところ不足していると感じました。重田委員いかがですか。
- (重田委員) 将来の1番大きい問題は、紙の文化がどのぐらい続いていくのか、電子の文化にどのように移るのが、多分、図書館業務にとって1番大きな問題だと思います。去年、芥川賞をもらった、身体障がい者の市川さんという方がいまして、重度の身体障がい者で、車椅子、寝たきりで、指だけでパソコンを打ちます。彼女が言うには、紙の図書館を重視する人たちは、私たちに対する差別者であると、その一文を読んだ時に、本で育ってきた私としては、非常に衝撃を受けました。彼女がどう読んでいるのかというと、全身の神経が麻痺していますから、本は重

くて持てませんし、ページをめくることができません。電子だけが頼りで、電子本になっていないものは読めないのです。それで、40歳を過ぎて、大学の通信教育に合格して、書くことを覚えて、読むことは電子だけで、小説を書いたら、芥川賞までもらいました。そのお姉さんも障がい者で、その彼女が、やはりどんどん電子に変えていかないと、私たちみたいな立場の人間は、本さえ読めないという発言をしまして、今まで主張してきた私の認識を壊されまして、やはり年寄りになったら、小さい活字は読めないし、やはり大きい活字の本はいるし、障がい者の人は、電子書籍しか読めない人もいます。つまり、図書は、一方向の人ではなくて、老人、障がい者、あらゆる人、他方面におけるサービス体であるべきだというのがこれからの立ち位置だと思います。今、事務局が説明した、どうやって電子書籍をピーアールしていくか、これからの方は電子書籍を読む人たちも当然、時代と共に増えていくと思いますが、公的なサービスはそういうわけにいかないのです、大きな活字の本もあれば電子の本もあり、紙も残してもらいたいし、そういうバランスを今後取っていくのが、将来の1番大きなテーマではないかと思えます。

(日野会長) 様々な障がいを抱えている方がおられますので、幅広く図書館を利用いただける、そういう公共の場としての位置付けをもう1度再認識すべきだと感じているところです。学校側からすると、土屋委員、電子の教科書の導入とか、大学では始めつつありますが、小学校はいかがですか。

(土屋委員) 基本的には学校の図書館は、書籍しか置いていないわけで、市の図書館は電子図書館という活動が始まっていて、全員に周知されていて、全員が利用しているかという、実体としては、そうではないが、電子書籍を読みたいという子どもは、少数ですがいます。学校で、例えば、調べ学習をするといった時には、図書館で借りた本を使い、また、今、タブレットを利用して、インターネットを活用しての調べ学習といったところです。電子図書館としてタブレットを開いて活用するという場面は中々ないです。ただ、図鑑とかの方が使い勝手が、調べながらページを開いていくところが、活用としては良い部分があるので、今、どのくらい利用しているかについては、把握できていないので、正確にはお答えできません。

(村井委員) 大塚委員はご存知だと思いますが、総合学習か何かで、市の図書館の資料とか検索で入っている学級は見かけました。小学校で総合学習や授業とかで、タブレットを用いて市の図書館に入っている学校が多い気はします。多分、図書カードを1年生のときに貰っていて、子どもたちが市の電子図書館のところに入るといことは、行っている様子を見ました。

(日野会長) 電子図書館の場合、例えば1冊の電子上に載っている本を複数入れるというわけではないのでしょうか。

(事務局) 3アクセスまで可能というものもありますし、1アクセスまでというものもあります。児童書は、3アクセスまでというのが若干多いかたちになっています。

- (日野会長) それぞれの図書によってはアクセス可能数が違うということですね。
- (大塚委員) 気が付いたところを申し上げますと、図書館の方が、各学校の1年生の入学時に、利用カードを作るように、促しているわけですが、これは強制ではなくて、利用カードを作らない子が若干います。全員が持っていないというところで、学校側として、全員共通の利用ができないので、中々、読書の時間に、例えば電子図書を利用しましょうということが共通ではないです。あと、この電子図書サービスが始まったのがまだ浅いということで、1、2年生が自分で電子図書を見て、タブレットで読むということが、まだついていけないと思います。
- (日野会長) 利用カードは任意ですから、そこでまた学習機会の意味で差が生じてしまうのはよろしくないですね。
- (土屋委員) 利用カードですが、1年生の時に作成して、それをずっと継続して活用できるのですか。
- (事務局) 転出をしない限り、ずっと使えます。
- (日野会長) 浅沼委員いかがですか。
- (浅沼委員) 本校の場合は、目が見えない方、見にくい方が通っている学校なので、音声は昔から馴染みがありました。児童生徒の様子を見ていますと、紙のもの、音声のもの、いろいろと自分で使っていく中で、自分にとってよりよいものを探していると感じています。今タブレットがあって、教科書等もありますが、自分で拡大できて、文字の大きさなど、自分にあった大きさに選べるから良い点もありますが、逆に、書物の全体像がわからなくなるということで、拡大された本の方が使いやすいというか、両方を使って良いとこ取りをしている状況にあります。図書館であっても、書物に触れられる、いろいろなものがあるというところで、いろいろな方法があるということを紹介していただくということが、市立の図書館であって、ありがたいと思っています。子どもたちが、いろいろなことを自分で触れて、選択ができるということがベストだと思います。
- (日野会長) 選択のチャンネルを増やしていくという意味合いですね。そこを市の方でも周知をしていただきたいと思います。川又委員いかがですか。
- (川又委員) 何年か先にデジタル教科書に変わったときに、我々必要なくなるのではないかと会員みんな不安に思っています。我々としては1人でも生徒がいれば、拡大教科書を届けるという姿勢なので、環境が変わっても、選択肢として残してほしいという気持ちがあります。
- (日野会長) 生徒、児童が選べる選択肢を確保することが、1番必要だということですね。大和久委員いかがですか。様々な市民活動をされている中で、ご意見があればお願いします。
- (大和久委員) 電子書籍から離れますが、アンケート結果のところの、20代未満が0で、20代が3というところで、図書館を利用する年代に比例しているのか、あと、子どもたちに図書館のことについてのアンケートを聞く機会というか、子どもたちがどう感じているかということを取る機会とかはあるのかということと、今後そう

いうことを検討されていますか。

(日野会長) アンケートを年代別で例えば取るとか、その辺りの計画はありますか。

(事務局) 図書館利用者アンケート自体が、一般利用者を想定しているのが原因で、今回は、10代の回答がなく、20歳未満の利用という面で見ると、やはり、児童の絵本や児童書を読む子どもたちはたくさんいるので、利用者アンケートが一般向けだったということで、ご理解いただければと思います。

(日野会長) 若い世代の声もアンケートで聞いてみることも1つの方策です。若い世代の声も反映して、公共施設としての図書館運営を考えていきたいと思います。可能なら、若い世代にも声を聞くような、アンケートのみならず、例えばインタビュー、ヒアリングでも構いませんので、そういう機会も用意いただけるとありがたいと思います。その他、いかがでしょうか。

(森田委員) 利用者へのアンケートという、利用者という区分の中でのより良い改善が必要だと思いますが、皆さんがご指摘のとおり、利用していない人の意見をどう吸い取るかというところの調査の仕方を今後、試行的にでも行っていただくのが良いと思います。その場合、アンケートではなく、ヒアリングというかたちで、サンプリングで聞いていただくと良いと思います。先ほど指摘があった誰にでも利用されるようなという意味だと、アンケートを答えにくい障害がある方とか、あと、外国人の方は、そもそも日本語が読めないことがあると思うので、そういった方がどのようにしてアクセスできるようにしていくか、直接のヒアリングで、サンプリングで意見を聞くと、何か次へのヒントになるのではないかと思います。

(日野会長) 意見を踏まえて、検討いただくとありがたいです。四街道市には、市民アンケートの機能と、インターネット上の、例えば、アンケート機能はありましたか。市民の声とかをネット上で出せるようになっていますか。

(事務局) 市長へのメール、市民の声などの制度はあります。

(日野会長) 入館者以外の方々、特に外国よりいらした方々もいらっしゃいますので、その方々が利用しやすいような図書館運用、あとは、蔵書の中身も変わると思います。これからは多様化の時代ですので、おそらく選書も大分変わってきますから、多様な方々からの意見をいただけるような仕組みを構築していただきたいと思います。では、アンケートについては、以上ということでよろしいでしょうか。続いて次第の3) 令和5年度図書館サービスの進捗状況ということで、こちらも事務局から説明をお願いします。

(事務局) ～令和5年度図書館サービスの進捗状況について説明～

(日野会長) 各委員から質問、意見、また感想をお寄せいただければと思います。31番の図書館サポーター活動は、大和久委員がいろいろと関与されていると伺っていますが、意見があればお願いしたいと思います。

(大和久委員) お母さんたちの声として、図書館に行くことがすごくハードルが高いということがわかって、やはり子供が騒いでしまったらどうしようと、図書館は静かにするところだから、子供が動き回っている間に本を選べないのではないかと、四

街道に長年住んでいるのに、お母さんたちから図書館はどこにあるのですかとか、そんな状態から始まって、おはなしのへやがあるので、来た親子が本を借りるだけではなくて、ゆっくりそこで過ごして、関わりの中から人とのコミュニケーションが生まれたりというところで、あかちゃんといっしょルームを始めてみて、最初の頃は、おはなしのへやはどこにあるのですかから始まって、ここでご飯を食べても良いのですかとか、子供が歩き回っても良いのですかとか、声を出しても良いのですかとドキドキしたところから始まって、その状態からお母さんたちが安心して、最初はサポーターが入っても良いのですよと声かけから始まったのですが、今は、常連のママたちも増えてきて、お母さんたちがここゆっくり過ごせるよと、利用がすごく増えて、その中から、本の紹介で、どんな本が好きなのですかとか、大きくなるとどんな本が良いのですかと、本への関心であったり、子供がそんな本が好きなのねというように、繋がってきているのかなと思っています。その他にも司書の力を借りて、図書館の探検ツアーを2回行い、いろいろな機能を持った図書館に興味を持ってもらえたり、朝活図書館だったり、何かいろいろな取り組みをして、図書館は少し敷居が下がったのではないかと、親しみが持てて、市民も関わっても良いのだというところに今変わってきているのではないかと思います。

(日野会長) 先程、大和久委員が話されたとおり、ただ本を借りる、返すという場所ではなくて、そこから人と人が繋がっていくという、コミュニティの場になって、おさんぽ図書館など図書館を離れてもネットワークが出来上がりつつあるという、非常にグッドプラクティスというか、好個な事例と思いながら聞いていました。今年度における取組状況等に関して、館長からご説明いただけますか。

(事務局) ~今年度から行った新規事業について説明~

(日野会長) 幅広く老若男女がそれぞれ参加できる仕組み作りだと思います。こたつのイベントは、図書館に来るきっかけ作りという意味で、非常に有益な企画だと感じました。委員の皆様方から意見を忌憚なくお寄せいただければと思います。森田委員いかがですか。

(森田委員) 質問としては、この図書館サポーターというのは、どのように発掘してお願いしているのかということが1つ、あと、今後、障がいがある方とか、外国人とかがアクセスしやすいようにという意味では、例えば博物館ですと、ダウン症の子どもたちだけを対象にした博物館デイなどを作って、まず、アクセスしやすいように、遠慮なく騒いでもいいというように、その日を作るとアクセスしやすいという声があり、あと、外国人市民が多い図書館だと、その言語での読み聞かせというのを、ネイティブの方をお願いして、そこでアクセスしてもらうきっかけを作るといふ、そんな話も聞くので、そのようなアイデアを取り組んでいけると思います。2つ目は、ポテンシャルのある方をどうやって選んで、お願いしているのかというところを伺いたいと思います。

(事務局) 2つ前に所属していた担当が、地域コミュニティを担当していましたが、地域

との繋がりの中で、たくさんの人材、特に、いろいろな力を持った方々がいると実感していたので、その方々、1人ひとりに声かけしながら、また一方で、大和久委員のようなハブになる方がさらに広げていって、知らない誰かに言われるより、知っている誰かに言われた方が、信用があり、多く繋がってくると思うので、最初のきっかけを提供して、そこからは繋がり、力をいただいているところがあります。そういった方々に、平日で、月間20日ぐらいあると思いますが、サポーターが20人いれば、1人1回出てすべて回ります。少しずつ皆さんの力を得ながら、仕事のようにということではなくて、自分ができることを提供していただくということが、現在の図書館サポーターのかたちになっています。障がい者とか外国人の話についてですが、図書館サポーターの方に駅の図書館の補充作業をお願いしているところですが、今後、障がい者の方の賃金に繋げていけたらということで、来年度、整理補充するための事業委託をする予定になっています。あと、現在、図書館の移動本棚を作っています、それも障がい者施設にお願いしています。そういったかたちで、障がい者の方も一緒に図書館を作る仲間として、関わっていけるような環境づくりをしていきます。外国人に関しては、四街道市に国際交流協会がありまして、先日、英語の読み聞かせの相談をしました。四街道市はアフガニスタン人が非常に多いのですが、そういった方々に対するアプローチというのは、学校現場も悩んでいるという話を伺っています。中々そういった人材を見つけるのは難しいのですが、国際交流協会とも連携して、外国人にアプローチできないかと思っています。

(日野会長) その他いかがでしょうか。

(重田委員) 読書会を年6回行っていますが、市民の方が年2回、大学のOB会が年4回です。私の役割としては、人間が様々な考えで生きていますが、身近で知り合える人間は、中々、知れたものだと、こんな人間がいるということは、世界、日本の文学の超一流の人たちの声を皆さんに味わっていただく、そういうことを始めましたら、やはりすごく皆さん、入れ込めます。私としては自分の力の許す限り、市民の方、いろいろな住民の方に広げていきたいと、ただ、中々、ピーアールがうまくできません。孤立化する人間がこれから若者も老人も両極端で多くなるのではないかと、その孤立の最大の問題は何かという言葉です。自分の言葉をみんな持ちたい、求めたい、これは究極です。それは本の中にやはりあります。中々、生きている友達、周りにそういうことを得ようと思っても、中々転がっていません。だから、図書館というのは、館長にいつも言っていますが、5つの役割があります。話す言葉、読む言葉、聞く言葉があります。それから、書く言葉、最後に考える言葉があります。この5つの言葉の機能を十全に回していけるのが図書館という館であります。そんな考えを持っていまして、全国にない四街道市を皆さんで協力して作り上げればと思います。

(日野会長) 小中学校向けの朝活だとか、あとは、様々、図書館探検ツアーも開催されていますが、土屋委員いかがですか。小学生はかなりフレンドリーな形で、図書館に

足を運んでいる感じですか。

(土屋委員) 学校の中での活動としては、ボランティアの方がお話し会を開いていただき、あとは、PTAの方で図書ボランティアということで、かなり図書に関して積極的にボランティア活動で関わっている方がいます。市の図書館の利用状況については、やはり、学校として、中々把握できていない部分があるので、学校内での子供たちの図書館の活用とか、あとは、外部からの支援、ボランティアというところではすごく充実している状況です。

(日野会長) 学校の中での図書館では、何か物足りない時や、図書がない時などには、やはり市の図書館に来館するといった、良い循環が構築できると良いですね。また、そうした循環に向けた広報もできるとありがたいと思います。では、最後の議題ということで、4) 令和6年度図書館サービス計画案ということで、事務局から説明をお願いします。

(事務局) ~令和6年度図書館サービス計画(案)について説明~

(日野会長) 図書館サポーター活動が幅広になってきているということで、あと、22番のわろうべの里については、図書館サービスポイントとして追加されるということで、新たな取り組みが始まりますね。各委員の皆様方からの意見等ございますか。今年度の計画の中に入っていた35番の業務マニュアルの中で、知識、技術の的確な伝達というところで、冒頭、重田委員から意見がありましたが、専門的な知見をしっかりと引き継ぎ、あとは、図書館の現状と課題をしっかりと認識をするよう体制作りというのは非常に重要な視点だと思いますので、この辺りも、PDCAサイクルを回していただいて、業務マニュアルどおりに行かなかったところの改善だとか、市民の皆さんの幅広な意見、アンケートの話題が出ましたが、やはり年少者の方、小中学生、高校、大学生など、若い方々の意見もしっかりと耳を傾けていただきたいと思います。この辺り、業務の円滑な遂行とともに、市民の意見をしっかりと反映できるような仕組みをお願いいたします。あと、委員の皆様からいかがですか。

(村井委員) 今年度、開館40周年記念事業で「本の樹」を行ったと思いますが、ネット上で見た時に、すごく読んでみて心にしみるというか、初めてそのホームページを見た時にそこに目が止まって、バナーをクリックすると、そういうのが出てきたので、周年事業で行ったと思いますが、本を利用者の方が紹介することはすごく良いことだと思ったので、もしそういう機会があれば行っても良いなと思いました。

(事務局) 周年事業という銘は打っていますが、やはり利用者同士のコミュニケーションは、これから図書館を作っていく中で、非常に重要だと思います。「本の樹」という体の中、いろいろな工夫、仕方があると思うので、頂戴した意見を反映できるよう検討していけたらと思っています。

(日野会長) 最近、大学でもビブリオバトルという、本を紹介しあって、競争すると言いますか、そのような大会を開きますが、やはりしっかりと薦める理由だとか、しっかりと発言でき、コミュニケーションも取れるので、何かそういう利用者間の関係

性の構築ですか、この辺りは非常に重要だと思うので、またご検討いただければと思います。

(森田委員) 広報の件で提案ですが、非常に良い取り組みがたくさんあるので、知っていただくという意味で、例えば、駅の図書館にQRコードとか、最新のニュースとか、イベント情報のような、図書館に来るとわかりますが、来る時間がない、でも駅は利用している人はたくさんいるので、駅の図書館のコーナーとても良いと思うので、そこに何か目を引くシンボルがあると、中々立ち寄れない人にも届くかと思いました。

(事務局) 図書館サポーターの方が駅の図書館の本棚を整理していると、利用者からサポーターの方に案内をそこに置いてくれるとすごく助かるという声をいただいているところでして、単純に設置するだけではなくて、利用者にとって意味のある情報になるように検討していきたいです。ただ、場所としては駅なので、通行の妨げにならないように、また安全面に考慮しながら行わなければならないし、もちろん予算がかかる部分ではありますが、情報発信拠点として、駅は非常に貴重な発信の基地だと思います。

(森田委員) 掲示していただいて、お金をかけずに、QRコードを置くだけでも良いです。

(日野会長) A3版に貼って、スマホで取ってもらえれば良いと思います。

(森田委員) 図書館ニュースのようなかたちで良いと思います。

(日野会長) ありがとうございます。議題については全て終えているということになりますが、事務局から何か今後の予定など、何かありましたら教えてください。

(事務局) 次、令和6年度、秋頃、第1回目の会議を開催させていただければと考えております。また、近づいてきましたら、案内をさせていただければと思うのと、日頃、図書館を利用されているかと思っておりますので、遠慮なく、生の声を聞かせていただければと思っております。

(日野会長) 委員の皆様におかれましては、図書館に関してお気づきの点がありましたら、館長に連絡いただければと思います。今後とも、いろいろな意見を、忌憚なくお寄せいただければと思います。

9. 閉会

(日野会長) それでは、以上で令和5年度第1回図書館協議会を閉会します。皆様ありがとうございました。お疲れ様でした。

会議録署名人 重田 昇